

【山形県】

現在の景気：依然厳しい状況にあるものの、緩やかに持ち直している。

3か月程度の見通し：横這い圏内の動きが続くとみられている。

個人消費：持ち直し。2月の大型小売店販売（店調後）は前年比3.2%増と5か月連続で増加。3月の乗用車販売は、エコカー補助金の復活から、前年比148.8%増と6か月連続で増加。

住宅建築：減少。2月の住宅着工戸数は、貸家が前年比26.5%増加したものの、持家が21.2%減と2か月連続で減少、分譲住宅が12.5%減と3か月ぶりに減少し、全体では前年比9.4%減と5か月連続で減少。

設備投資：横這い。2月の建築着工床面積（非居住用）は前年比29.1%減と2か月ぶりに減少、工事費予定額は41.2%減と2か月ぶりに減少。

公共工事：減少。3月の公共工事請負額は前年比29.1%減少。

輸出：持ち直しの動き。2月の酒田港通関輸出額は前年比21.6%増と2か月連続で増加。

生産活動：足踏み。1月の鉱工業生産指数（季調済）は、一般機械、電子部品・デバイスが上昇し、全体では前月比0.1%上昇し6か月ぶりに上昇。

観光：厳しさが残る。12月の県内宿泊者数（延数）は前年比9.5%減少。

雇用情勢：持ち直し。2月の有効求人倍率（パート含む一般、季調済）は前月比0.01ポイント上昇し0.77倍。医療・介護のほか、復興需要を受けて建設業や製造業の求人が増加。

（トピックス）

○フィデア総合研究所の「山形県家計消費動向調査」結果（2012年3月実施）によると、消費指数は前期（2011年12月）比4.4ポイント上昇し△94.4と3期連続で回復。景気判断指数が前期比3.3ポイント上昇し△43.8、暮らし向き判断指数が1.1ポイント上昇し△50.6とともに前期を上回り、消費マインドは震災前の水準に回復しつつある。今後の見通しは、消費指数が前期比2.4ポイント低下し△96.8と僅かながら悪化の見通し。景気判断指数が前期比1.3ポイント上昇し△42.5と回復を見込む一方、暮らし向き判断指数が3.7ポイント低下し△54.3と悪化する見通し。

○日本銀行山形事務所が発表した県内企業短期経済観測調査（短観）（2012年3月調査）によると、業況判断DIは、全体では5ポイント上昇し「△6」と2期ぶりに良化。業種別にみると、製造業が7ポイント低下し「△7」と3期ぶりに悪化超。一方、非製造業は16ポイント上昇し「△6」と2年ぶりに製造業を上回る。先行きについては、原油高のほか、復興需要による好影響の一巡などから、非製造業を中心に悪化予想。

○経済産業省が発表した2011年の工場立地動向調査によると、山形県への工場立地は前年比1件増の17件。内訳は、新設が13件、増設が4件。依然として低水準ではあるものの、2年連続で増加しており、設備投資の回復傾向が窺える。都道府県別件数では全国21位、東北3位。

< 主要産業の動向 ー山形県ー >

- **一般機械**：1月の生産動向は、産業機械が前年比 26.1%増加、電子部品・デバイス製造装置が 60.8%増加、金属工作機械が 29.8%減少。国内外ともに受注が堅調に推移。円高による受注単価引き下げから、収益は伸び悩み。
- **電子部品・デバイス**：1月の生産動向は、半導体素子が前年比 16.5%増加、電子部品が 7.5%減少、集積回路が 29.3%減少。スマートフォン向け部品は生産拠点の再編などから減速感が強まり、電子部品は3か月連続で減少。集積回路は、車載向けが好調、家電向けが低迷。
- **輸送機械**：1月の生産動向は、自動車部品が前年比 12.3%増と6か月連続で増加。震災やタイの洪水被害による減産から持ち直し。
- **食料品**：1月の生産動向は、調理食品が前年比 0.7%増加、菓子類が 4.9%減少、肉製品が 4.7%減少、清涼飲料が 17.6%減少。調理食品は、震災後の代替生産によって増産が続いているものの、足許では増勢鈍化。清涼飲料は、大手メーカーの内製化や生産調整の影響から減産。